

研究・調査報告書

報告書番号	担当
541	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Associations of moderate alcohol consumption with clinical and MRI measures in multiple sclerosis. 多発性硬化症における適度なアルコール消費と臨床・MRI 測定の間連	
執筆者	
Foster M, Zivadinov R, Weinstock-Guttman B, Tamaño-Blanco M, Badgett D, Carl E, Ramanathan M.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Neuroimmunol. 2012 Feb 29;243(1-2):61-8.	
キーワード	
多発性硬化症患者 アルコール消費 障害	
要 旨	
<p>目的： 多発性硬化症患者におけるアルコール消費パターンと障害、脳損傷の間連を確認する。</p> <p>方法： 本研究は 272 名の多発性硬化症患者と 151 名の健常者からなる 423 名の被験者が試験に参加して、多発性硬化症における環境と遺伝のリスク因子を調査した。障害は EDSS(Expanded Disability Status Scale)と MSSS(MS Severity Scale)により評価した。脳損傷は T2-LV(T2-lesion volume)、T1-LV、NBV(normalized volumes of brain parenchyma)、NGMV、NLVV といった量的 MRI を計測することで評価した。アルコール消費パターンについては、聞き取り調査中に標準化された質問票を用いて情報収集した。障害および MRI 測定とアルコール消費の変数との間の間連を回帰分析を用いて評価した。</p> <p>結果： 多発性硬化症患者において、多発性硬化症を罹った後にアルコール摂取をしなくなかった人(19.4%)の度数は、多発性硬化症を罹る前にアルコールの摂取をしていなかった人の度数よりも多かった(p<0.001)。EDSS と NGMV、NLVV により多発性硬化症発症後にアルコール消費の持続期間には非線形な依存性が見られた。非線形回帰分析により、多発性硬化症発症後にアルコールを消費しなかった患者もしくは 15 年以上消費してきた多発性硬化症患者と比較して、多発性硬化症発症後にアルコールを 15 年以下消費してきた多発性硬化症患者では EDSS と NLVV は低い値を示し、NGMV は高い値を示した。</p> <p>結論： 多発性硬化症患者において、アルコール消費の継続期間は障害や MRI 測定と間連があった。長期間にわたる研究により、多発性硬化症の進行にアルコールが役割を果たすことが明らかになった。</p>	